令和８年 11 月４日
報道発表資料

川崎市（経済労働局）
三菱地所株式会社
東急不動産株式会社
プライム ライフ テクノロジーズ株式会社

～量子等先端コンピューティング分野の研究開発から社会実装までを支える拠点へ～

「新川崎・創造のもり イノベーション拠点整備事業」に関する事業契約を締結しました

川崎市と、三菱地所株式会社（本社：東京都千代田区）、東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区）、プライム ライフ テクノロジーズ株式会社（本社：東京都港区）の３社（以下「事業者」という。）は、「新川崎・創造のもり イノベーション拠点整備事業」（以下「本事業」という。）に関し、10 月 30 日（金）に事業契約を締結しました。

本事業では、ＪＲ新川崎駅に近接する「新川崎・創造のもり」（川崎市幸区）内の K² タウンキャンパス敷地において、量子・AI・半導体等の先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積し、PoC（Proof of Concept：概念実証）や社会実装の拠点となる施設「（仮称）QBIC（Quantum Business Incubation Center）」（以下「本施設」という。）を事業者が整備・運営します。

本施設は延床面積約５万㎡、ラボ賃貸面積約３万㎡を見込んでいます。レンタルラボやコワーキングスペース、交流・展示、滞在機能等を備える計画で、研究者、企業、スタートアップ、大学等が分野を越えて集まり、新たな事業創出に取り組む施設として、令和 12（2030）年の開業を予定しています。



▲「（仮称）QBIC」外観イメージ

事業者は、川崎市が推進する「量子イノベーションパーク構想」の中核拠点として本事業にて高質な研究・開発環境を整備するとともに、量子に関連する企業・人材を誘致し、研究機関や企業との連携と共創を推進することで、広域・国際的な量子イノベーションを先導するエコシステムの形成を目指してまいります。

■「(仮称) QBIC」について

本施設は量子技術を中核とした先端コンピューティング分野に関するラボ機能と共創機能を備えた、全国でも先駆的なPoC/社会実装拠点となることを目指します。また、カフェラウンジ等のアメニティ機能や、地域交流・学びの場も一体的に備えることで、企業・研究機関の人材間の交流創出に加え、先端技術と市民・地域社会をつなぐ開かれた賑(にぎ)わい空間を創出するとともに、隣接する公園と連続性を持たせ、研究者等の憩いの空間を創出し、公園を訪れた方々も気軽に立ち寄れる施設として整備します。

【「(仮称) QBIC」の特徴】

(1) 量子技術の社会実装を加速するPoC/社会実装拠点

量子技術を核に、量子・AI・半導体等の先端コンピューティング分野における研究成果を実証・事業化し、社会実装へと橋渡しする拠点を整備します。

(2) 研究機関・企業・スタートアップ等が連携する共創環境

レンタルラボ、コワーキングスペース、交流・展示機能等を備え、多様なプレーヤーが分野を越えて連携し、新たな技術検討、共同PoC、事業創出に取り組むための共創環境を整備します。

(3) 人材の交流、先端技術と地域社会をつなぐ、開かれた交流・学びの場

エントランスやカフェラウンジ、コワーキングスペース等を活用した交流・展示・情報発信・教育・学びの機会等を通じて、研究成果や先端技術を地域にも開き、市民や子どもたちが科学技術に触れられる場を創出します。



▲エントランスホールイメージ



▲コワーキングスペースイメージ

■本施設の概要（予定）

施設名称	(仮称)QBIC
所在地	神奈川県川崎市幸区新川崎７番１号
アクセス	JR横須賀線「新川崎」駅徒歩約10分、JR南武線「鹿島田」駅徒歩約15分（予定）
敷地面積	約16,400㎡
延床面積	約50,000㎡
構造階数	鉄骨造／地上９階建
用途	レンタルラボ、オフィス、店舗など
着工／竣工	令和９（2027）年／令和12（2030）年（予定）

＊本施設の概要は今後の関係者間での協議により変更となる場合があります。

＜問合せ先＞
【本事業に関すること】川崎市経済労働局イノベーション推進部
藤本　TEL：044-200-3895（内線28304）
【本施設に関すること】三菱地所株式会社 広報部　TEL：03-3287-5200
※本資料の配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、川崎記者クラブ

別紙

■川崎市「量子イノベーションパーク構想」及び本事業の背景について

川崎市は、市内の研究開発拠点や企業、大学、スタートアップ等との連携を広げ、量子技術をはじめとする先端技術の研究開発・実証・社会実装を一体的に推進する「量子イノベーションパーク」の実現に向けた取り組みを進めています。なかでも新川崎・創造のもりでは、量子コンピュータ IBM Quantum System One「Kawasaki」の設置・稼働や、SQAI（サスティナブル量子 AI 研究拠点）新川崎サテライト拠点における量子コンピューティング※の活用支援など、量子分野における産学官連携の基盤が形成されてきました。

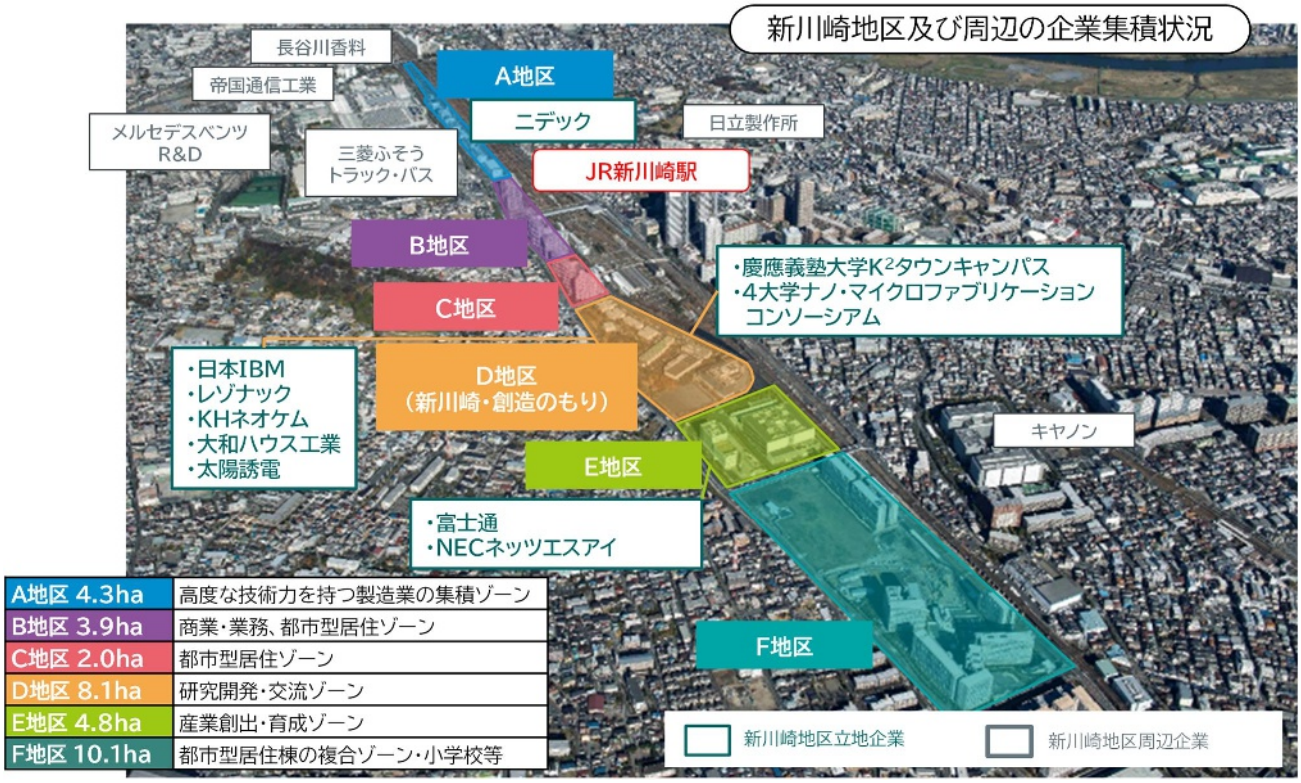
近年、量子技術は、計算、通信等の分野において、将来の産業競争力や社会課題解決を支える基盤技術として注目が高まっています。一方で、社会実装に向けては、研究開発の成果を産業界の具体的な課題と結び付け、実証や事業化につなげていくための環境づくりが重要となっています。

「(仮称) QBIC」は、川崎市が掲げる「量子イノベーションパーク構想」の中核拠点として、研究開発、実証、共創、情報発信、人材育成等の機能を一体的に備え、先端技術と産業をつなぐ実装の場を創出します。新川崎・創造のもりから、市内外の多様なプレーヤーとの連携を広げ、イノベーションが次々と生まれるようなエコシステム形成を目指します。

■「新川崎・創造のもり」について

新川崎地区は旧国鉄の操車場跡地を中心とした 33.2ha に及ぶエリアであり、平成 17（2005）年に新川崎地区・地区計画が策定され、ものづくり・研究開発機能の強化を通じた産業の創出・育成および市民利用機能の整備が図られています。

新川崎・創造のもりはこのうちD地区に位置し、産学官の連携による新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と次代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを目指し、川崎市にて段階的な施設整備を推進しています。



出典：川崎市「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」

- 平成 12（2000）年に K² タウンキャンパスを慶應義塾大学と川崎市の連携・協力のもと開設
- 平成 15（2003）年から、かわさき新産業創造センター（KBIC）として、３棟のインキュベーション施設（KBIC 本館、NANOBIC、AIRBIC）を順次開設
- 計 100 室、ラボ面積 8,100 ㎡の首都圏最大級のインキュベーション拠点へと成長
- 民間事業者による企業向けレンタルラボ約 11,000 ㎡も整備され、大手企業のオープンイノベーション型ラボも立地



▲赤枠：「(仮称) QBIC」事業敷地

出典：川崎市「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」

※ 量子コンピューティング：量子力学の法則を利用して、従来のコンピューター（古典コンピューター）では膨大な時間を要する複雑で高度な計算を、短時間で解くことを可能とする技術。電力消費が極めて小さいことが特徴であり、将来、材料開発、創薬、金融、AI など幅広い分野で活用され、革新的な成果を生み出すと期待されています。

以　上